

山形県教育センターだより

山形県教育センター 指導主事 齋藤秀志

1 はじめに

県教育センターは、本県の中核的な研究・研修機関として、教員の資質向上のための研修の充実、教育課題を踏まえた実践的研究の推進と成果の普及、そして学校や各研究会の研究・研修活動への協力、さらには各種教育資料の情報発信などを通じて、学校や先生方の支援を行っています。

2 「教育の情報化」の推進

(1)「教育の情報化」に関する研修講座

本年度は以下の研修講座を実施しました。

＜初任者研修＞

- ・教科指導と ICT の活用及び情報セキュリティなどの講義や演習

＜専門研修＞

- ・ICT を活用した授業づくり基礎講座
- ・携帯電話を中心とした情報モラル教育推進講座
- ・校内ネットワーク活用基礎講座

上記以外にも各学校に出向き、出前講座を実施しています。

「教育の情報化」は、子どもたちの情報活用能力を育成するための情報教育、各教科などの目標を達成するための教科指導における ICT 活用、教員の事務負担の軽減と子どもと向き合う時間を確保するための校務の情報化の3つから構成され、これらを通じて教育の質の向上を目指しています。

県教育センターでは研究・研修を通じて、各学校の教育の情報化をサポートしてまいります。

(2) 山形県教育情報通信ネットワーク運用調査研究

平成 20 年度より 3 年間にわたり、前述の「教育の情報化」推進のための調査研究を 2 テーマ実施しています。

①校務の情報化研究事業

校務処理用に教員 1 人 1 台の PC 導入や校内ネットワークの整備など、学校を取り巻く ICT 環境は大きな変革期を迎えています。校務の情報化を推進する 1 つのアプローチとして、校内ネットワークを活用し、グループウェアを導入した場合の有効性を研究しています。

県立谷地高等学校をモデル校とし、グループウェアとして国立情報学研究所が次世代情報共有基盤システムとして開発した NetCommons を利用し研究をすすめてきました。

研究のまとめとして、リーフレットとグループウェアを簡単に体験・導入できるソフトウェアパッケージを現在制作中です。完成後は、県教育センターホームページで公開予定です。

②オープンソースソフトウェア (OSS) の有効性検証・研究事業

近年、自治体へのオープンソースソフトウェア（以下、OSS）の導入がすすんでいます。本県では、県の標準オフィスソフトウェアとして、OSS の 1 つである OpenOffice.org を採用し、県庁約 5600 台の PC への導入がはじまりました。

このような背景の中、学校における OSS の有効性について研究し、報告書にまとめました。報告書と研究概要の PDF 版は、県教育センターホームページよりダウンロードすることができますのでご覧ください。

3 カリキュラムサポートプラザの開設

本年度、県内の学校や教職員を対象として、学校づくりや授業づくりを総合的に支援するために、教育資料の情報提供や相談を行っています。是非、ご活用ください。